

平成 26 年度事業報告

平成 26 年度一般財団法人狛江市文化振興事業団の施設利用、自主事業に関し、以下をご報告いたします。

まず、第 3 期指定管理期間の初年度となった平成 26 年度の施設利用状況ですが、ホール稼働率は昨年度、57.8%でしたが 60%となり 2.2%増となりました。展示多目的室稼働率は昨年度、57.6%でしたが 64.1%になり 6.5%増、そして、リハーサル室稼働率は昨年度 81.1%でしたが 83.7%となり、2.6%の増となりました。ここ数年、土日祝日の施設貸し出しは 1 年前の受付時にほぼ一杯となるため、今後、稼働率を更に上げるためには平日の貸し出しをどう増やすか、検討が必要と思われます。

なお、舞台修繕計画により平成 27 年 1 月 17 日から約 3 週間をかけ、ホール内音響機器をリニューアルしております。

次に自主事業ですが平成 26 年度はホール事業 19 公演（共催 2 公演を含む）、ロビー事業 6 公演を実施しました。様々なジャンルを実施していますが、チケットが完売となった公演は 8 公演でした。鑑賞型事業では数年置きに不定期に実施している「鼓童」、平成 23 年に実施し反響が大きかったため、アンコール公演として行った「矢野顕子アンコール L I V E」、そして、「今井信子ヴィオラ・リサイタル」では狛江出身で、現在、ヨーロッパを拠点に活躍している彼女の弟子の紹介を兼ねて共演させるなどして、いずれも完売し好評をいただきました。一方で、団塊の世代や高齢者向きに企画した公演のチケット販売が予想に反し、大変伸び悩む結果となりました。参加型事業では 2 回目となった東京文化発信プロジェクトとの共催による「パフォーマンス・キッズ・トーキョー」を実施。公募による小学生が 2 週間、プロのダンサーの指導によるワークショップに参加しその成果を舞台発表し、今回も充実した事業となりました。自主制作型事業では、5 回目となったオープンハウスは絵手紙発祥の地—狛江の実行委員会の事務局でもあることから、絵手紙をテーマに取り上げました。遠方からの来場者も多く盛況となり、過去のオープンハウスでは、最高の集客となりました。そして、狛江在住&ゆかりの演奏家を中心とした「エコルマ・アンサンブルコンサート」では、開館 20 周年記念プレ企画として狛江ゆかりの 2 人の作曲家の作品を取り上げ、また、平成 24 年度エコルマホール文化芸術支援事業団体も参加し、狛江ならではの独自性の高い公演となりました。ロビー公演は若手の演奏家や市内在住の演奏家を紹介するなどの場としていますが、今年度は地域に根差した出演者だったため、好評をいただき 4 公演が完売となりました。支援型事業に関しては公募により 1 団体を決定、実施いたしました。

来年度は開館 20 周年と言う節目でもあるため、市内、近隣はもちろんのこと、今まで以上に広い範囲でのホール告知を進めたく、また、引き続き市内関係機関などの協力を仰ぎ、充実した事業を実施して参りたいと存じます。